

臺灣に於ける酒精に就いて

臺灣總督府中央研究所糖業科長 石田 研氏

臺灣に於ける alcohol の生産高及び使途に就て御話申上げたい、

近年内燃機關の發達につれ燃料油缺乏の結果 alcohol が代用燃料として認められ益々今後需用の廣くなることを聞いて居ます。

臺灣では molasses から多量の alcohol を産出する能力を持て居ります。現今臺灣では製糖會社が 13 あり其の工場が全部で 45 箇所にあります。其の主なる工場は副産物である molasses の利用法を講じて居ります、現在に於ける其の生産高を挙げれば

工場名	帝國製糖 (新竹工場)	同 (臺中工場)	新高製糖 (彰化工場)	大正製酒 (斗六工場)	明治製糖 (蒜頭工場)	大正製酒 (嘉義工場)	
一日酒精 製造能力	22石	23.4	22.4	17	35	25	
工場名	嘉義製酒 (水上工場)	鹽水港製糖 (高雄工場)	同 (花蓮港工場)	臺灣製糖 (橋子頭工場)	同 (屏東工場)	佐藤製酒 (花蓮港工場)	計
一日酒精 製造能力	70石	40	17	40	36	10	357.7石

95% alcohol を標準としまして molasses より何程の alcohol が取れるか調べて見ましたに、平均の値は alcohol 一石に對し 1,275 斤の molasses が必要となつて居ります。製糖の副産物として molasses が何程出来るかと云ふに各々工場の設備の如何によつて異なりますが八ヶ年平均の價に就て見ますに砂糖の約 30% が molasses になる様であります。一ヶ年に於ける製糖の産出高が本年の豫想は 5,300,000 ピクル(1 ピクルは百斤) になつて居ります故に molasses の産出高が之の 30% となり、之れから 95% alcohol が 125,000 石一年に出来る計算になります。

上記の表では製造能力(一日)は 357 石餘になつて居りますが今日では尙ほ増加して居る見込みであります。此の内臺灣土着人の飲料として燒酎類似の糖蜜酒即ち 30% alcohol を含むもの一年7萬石を用ることになつて居ます、其他の消費を合せて一年21,000 石としても尙ほ酒精 100,000 石餘の生産能力になります。molasses の利用法に就ては其

他色々研究されて居ます、尙ほ一度之れより sugar を精製する方法もありますが、之れは現在實施されない。燃料として用ゆれば糖蜜百斤が 30 錢位の價値を發揮するに過ぎず、家畜の飼料としても利用少なき故に價値あるものでなく現今では alcohol とするのが最もよい利用法であります。臺灣に於て兩三年前より酒精を内燃機關用として内地に於て使用することに就て調査して居ります、臺灣としては一年に 100,000 石の alcohol を消費する途があれば相當利益を見ることゝなります。然らば實際問題として價格の點であります。之れは私の直接關係でなく隨て明確には分りませんが先づ東京渡して一封度 12 錢以上なれば當業者の方で承諾することゝ思ひます、之れは税を考へない場合で最低の價格として考へ置かれたい。

次に戻し税の問題であります、高い税では供給出來ず目下内務省の方でも alcohol を動力用として戻し税の解決も考へられつゝある由なれば之れが除かれるならば前の價格で供給出來ることゝ思はれます。

現在では糖蜜 100 斤につき二圓の税がかゝるのを免れん爲め却て金をかけて溝に流し肥料として利用して居る次第で alcohol として利用されて居るのは僅かに 30,000~40,000 石で之等の半量は混成酒用として使用されて居ります、臺灣に於ける本年の製糖産高豫想は 5,300,000 ピクルであります、近き將來には 6,000,000 ピクルになり 150,000 石の alcohol が供給出來ると思ひます。之等の alcohol が代用燃料として内地に於て使用されるゝことゝなりますれば相互の幸と思ひます以上臺灣に於ける alcohol の産出高を申述べて何かの機會に於て之等の利用法をお考へ下さる様希望する次第であります。

(終)